

【春子夫人特製押し葉】

朝晩の冷え込みが一層増し、木々の葉もすっかり色づいてきました。

先月ご紹介した「春子夫人が描いた墨絵」に続き、今月も芸術の秋にちなんだ「春子夫人特製押し葉」を“イッピン”としてご紹介いたします。

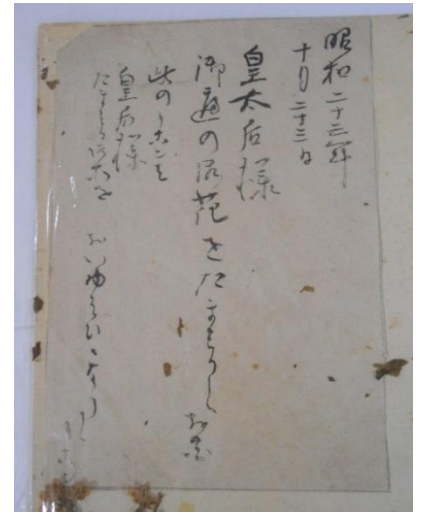
先月の「墨絵」同様、春子は幼少の頃からたくさんの稽古事に精を出していたこともあり、色々な創作も行っていました。「押し葉」作品は8種あり、様々な種類の葉を利用し作られています。なかには、植物標本のような作品もありました。

「大正11年10月18日慶州仏国寺…」とあるのは、實が朝鮮総督として赴任していた頃の作品と思われます。また、「昭和23年10月23日」と日付が入っている作品には、「皇太后様皇后様」と書かれたメモが読み取れます。

「押し花」はよく耳にしますが、「押し葉」はあまり聞きなじみがないかもしれません。

「押し葉」を作る方法は、「押し花」と同様に新聞紙などできるだけ重ならないように落ち葉をはさみ、上から重しをかけて1日程度なるべく湿度の低い場所に保管します。乾燥させたのち、葉1枚1枚をはがきや便箋、カードなどにお好みの形や位置に貼りつけていくという手法です。また、フォトフレームに押し葉を入れて飾るのもお洒落な雰囲気になります。

みなさんも「オリジナル押し葉」を作り、季節感を味わってみてはいかがでしょうか？



實が作った作品も残されている。
實が春子と共に訪れた地の思い出として作られたのではないかと推測される。

↑ 實の筆跡がある作品 →